

特集

最近の農研機構育成果樹新品種

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門
品種育成研究領域長 別所 英男

特集

・最近の農研機構育成果樹
新品種 p1

・「食料生産地域再生のた
めの先端技術展開事業」
(福島県) p4

コラム

・果樹対策の今昔 p5

中央果実協会からのお知らせ

・2016年アジア果実会議・
展示商談会等について p6

・第55回農林水産祭「実り
のフェスティバル」への出展
p7

業務日誌

p8

人事異動

p8

果物を食べて
応援しよう！

被災地を応援

農研機構果樹茶業研究部門は、わが国における主要な果樹の品種開発を行っています。ここでは最近の育成品種のうち、平成26年度に農林水産省に品種登録出願し、公表されたカキ2品種及びニホンナシ1品種について紹介します。

1. カキ新品種「麗玉」、「太雅」

現在、甘ガキの生産は「富有」を中心とした中晩生品種に偏っており、早生品種は生産が多くありません。そのため品質の良好な早生品種を育成することは、生産者の収穫労力の分散だけでなく、販売・消費期間の拡大によりカキの消費の拡大のために重要です。早生品種のうち、不完全甘ガキの「西村早生」は、種子が少ないと渋みが残ることや、肉質が粗く品質が劣るため、生産が大きく減少しています。また、「伊豆」や「早秋」といった完全甘ガキの早生品種は、早期落果が多く、特に「伊豆」はカキ果実のへた付近の果肉が裂開するへたすき果の発生が多く、生産は減少しています。現在、早生～中生の完全甘ガキでは、比較的欠点が少ない中生の「松本早生富有」が生産の中心となっていますが、「松本早生富有」より収穫期が早く、高品質で安定生産可能な早生の完全甘ガキ品種「麗玉」、「太雅」を育成しました。

1)「麗玉」

「麗玉」は早生で、早期落果が少なく、へたすき果や果頂裂果といった障害果がほとんど生じない食味の良い完全甘ガキ品種です。樹勢は、「松本早生富有」並みの中程度で、樹姿は開張

と直立の中間です。雌花の着生は、「松本早生富有」と同程度の中～多で、まれに雄花を着生します。展葉期および雌花の開花期は、「松本早生富有」とほぼ同時期で、育成地(広島県東広島市安芸津町)では展葉期は4月12日頃、雌花の開花期は5月30日頃です。また、早期落果は少なく、後期落果は生じません。果実の収穫期は、育成地においては10月中下旬で、「松本早生富有」より10日以上早く収穫できます(表1)。収穫の目安はカラーチャート6程度で、「松本早生富有」と同程度の果皮色で収穫できます。果実はやや腰高の丸みを帯びた扁円形、果皮は橙色で玉ぞろいは良好です(写真1、写真2)。果実の大きさは、育成地では約278gで「松本早生富有」並みの大きさとなりますが、全国の試験研究機関における試作試験では、「松本早生富有」よりやや小ぶりの果実となりました。糖度は、18%程度で「松本早生富有」より高く、肉質の粗密は中、果肉硬度は、「松本早生富有」より低くて軟らかく果汁も多いため、食味は良好です。受粉樹が混植された栽培条件での種子数は5個程度です。果頂裂果、へたすき果は、ほとんど発生しません。果皮の表面に汚れを生じる汚損果の発生は少なく、外観が優れています。日持ち性は、早生品種としては長い24日程度で、「松本早生富有」並みです。単為結果力が高いため、受粉樹が不要で消費者ニーズの高い種なし果を生産することが可能です(写真2)。種なし果を生産するためには、周囲に受粉樹がない環境が必要です。種なし果の果実重、糖度、果肉硬度は種あり果と同程度で、外観も差はありません。

夏秋期の気温が高い地域に適応し、「松本早生富有」または「富有」の栽培地域で栽培が可能で、これらの完全甘ガキの産地に普及が進むことが期待されます。熊本県を

はじめ、岐阜県、奈良県といった地域で早期の普及が見込まれます。ただし、他の完全甘ガキ品種と同様、温度が不足した場合には果実に渋みが生じることがあります。また、「甘百目」、「大養」等の品種に接ぎ木すると不親和症状が認められ、他の一部の品種に高接ぎした場合にも生育不良が生じ、果実の小玉化や樹勢の低下が認められます。高接ぎする場合は、接ぎ木不親和の認められなかった「富有」、「松本早生富有」、「太秋」への高接ぎが望ましいです。



写真1 カキ「麗玉」の結実状況



写真2 花粉遮断したカキ「麗玉」の種なし果

「麗玉」は、平成 10 年に早生で高糖度の「甘秋」に、中生で良食味のカキ安芸津 19 号(「大御所」×「太秋」)を交雑し、平成 20 年からカキ安芸津 22 号として検討を行いました。平成 27 年に品種登録出願し、同年 9 月 29 日に出願公表されました。外観が美しく、ふくよかな果実のイメージにちなんで

名付けられました。11 県の 40 業者において苗木生産が行われており、平成 28 年秋季より苗木が販売される予定です。

2)「太雅」

「太雅」は早生で、早期落果が少なく、へたすき果や果頂裂果などの生理障害がほとんど生じない食味が良好な完全甘ガキ品種です。樹勢は、「松本早生富有」並みの中程度で、樹姿は開張と直立の中間です。雌花の着生は、「松本早生富有」と同程度かやや多く、まれに雄花を着生します。雌花の開花期は、「松本早生富有」とほぼ同時期で、育成地では 5 月 27 日頃です。栽培地域や年により後期落果を生じることがあります。果実の収穫期は、育成地においては 10 月中下旬で、「松本早生富有」より 10 日以上早く収穫できます(表1)。収穫適期は果皮色のカラーチャート値 5.7 程度です。果実はやや角張った扁平形で果皮は橙色です(写真3、写真4)。果実重は、育成地では平均 324g で「松本早生富有」より大きいですが、全国の試験研究機関における試作試験では、「松本早生富有」並みの大きさになりました。糖度は、16～17%で「松本早生富有」と同程度です。果肉硬度は、「松本早生富有」より低くて軟らかく、肉質は密で、果汁も多いため、食味は良好です。受粉樹が混植された栽培条件における種子数は 4 個程度ですが、多くはしいなを含む不完全種子です。果頂裂果、へたすき果は、ほとんど発生しません。「松本富有」より汚損果の発生が多いですが、その原因はへた部付近に生じる雲形状汚損です。この雲形状汚損は日持ちや食味には影響

はありません。日持ち性は 29 日程度で、早生品種としては長く、「松本早生富有」並みです。単為結果力が高いため、受粉樹が不要で消費者ニーズの高い種なし果を生産することが可能です(写真4)。なお、種なし果を生産するためには、周囲に受粉樹がない環境が必要です。種なし果の果実品質は種あり果と同程度で、外観も差はありません。

夏秋期の気温が高い地域に適応し、「松本早生富有」または「富有」の栽培地域で栽培可能で、これらの完全甘ガキの産地に普及が進むことが期待されます。香川県をはじめ、愛媛県、石川県といった地域で早期の普及が見込まれます。ただし、他の完全甘ガキ品種と同様、温度が不足した場合には果実に渋みが生じることがあります。「太雅」における雲形状汚損は、収穫が遅いほど多く発生するので、汚損果発生を防ぐためには果底部の緑色が抜けたやや早めの時点(果底部のカラーチャート値 4 程度)で収穫を行うようにします。早めの収穫を行っても、糖度などの果実品質には大きな影響はありません。また、秋季の雨よけによっても汚損果を軽減させることができます。

「太雅」は、平成 10 年に早生で高糖度の「甘秋」に、中生で良食味のカキ安芸津 19 号(「大御所」×「太秋」)を交雑し、平成 20 年からカキ安芸津 24 号として検討を行いました。平成 27 年に品種登録出願を行い、同年 9 月 29 日に品種登録出願公表されました。みやびな秋と大きな果実のイメージにちなんで名付けられました。11 県の 42 業者において苗木生産が行われており、平成 28 年秋季より苗木が販売される予定です。

表 1 カキ「麗玉」及び「太雅」の果実特性

品種名	収穫盛期	果実重 (g)	糖度 (%)	果肉硬度 (kg)	果汁の 多少	食味	へたすきの発生 (%)	汚損果の発生 (%)	日持ち
麗玉	10月22日	278	18.2	1.5	多	上	0	5	24
太雅	10月25日	324	16.7	1.4	多	上	0	18	29
松本早生富有	11月9日	260	16.4	1.9	多	中の上	13	7	23

農研機構果樹茶業研究部門(広島県東広島市)における5年間(2010-2014)の平均



写真3 カキ「太雅」の結実状況



写真4 花粉遮断したカキ「太雅」の種なし果

2. ニホンナシ「なるみ」

ニホンナシ品種の多くは自家不和合性であり、結実確保のためには受粉樹の混植や人工受粉が必須となっています。人工受粉作業は開花時の短期間に行う必要があるため、労働集約性が非常に高く、省力化が求められています。「二十世紀」の枝変わりである「おさ二十世紀」は、自家和合性を有するため、人工受粉を省力できます。そこで、「おさ二十世紀」を母本として交配を行い、自家和合性を有し、食味の良好な「なるみ」を育成しました。

人工自家受粉による自家結実率は68.3%です(表3)。このため、開花時に

ぼん天のみの受粉作業での結実が期待でき、花粉の準備が不要となる点で省力化が可能です。さらに、自然受粉下での結実率も55.8%であり、人工受粉をしなくても十分な結実が見込めます。自家和合性は「おさ二十世紀」由来の雌しべ側の変異によるもので、花粉側に自家和合化の変異は認められません。不和合性を示すS遺伝子型はS4smS5で、本品種の花粉は主要品種の中では「幸水」と交雑不和合性を示します。

樹勢はやや強く「豊水」と同程度です。短果枝の着生は多く、えき花芽の着生は中程度です。開花中央日は4月中旬で、「豊水」と同時期です。収穫中央日は9月上旬で、「豊水」と同時期です(表2)。また、収量は「豊水」並みです。果形は扁円形で、果実の大きさは600g程度で、「豊水」より大果です(写真5、写真6)。糖度は約13.2%で「豊水」と同程度、酸味(pH)は約4.9で「豊水」よりやや少なく、食味良好です。果肉硬度は約4.9ポンドで「豊水」と同程度で軟らかく、肉質良好です。みつ症は発生せず、心腐れはわずかに発生しますが、程度は軽微です(表2)。「豊水」同様、黒斑病には強く、黒星病に対しては弱いです。黒星病が多発するとの報告がみられるので、十分な防除が必要です。

樹や枝の枯死、胴枯れ症状の発生が全国的に認められます。今後、その発生要因等を明らかにする必要があります。

全国のニホンナシ栽培地帯で栽培

可能であり、人工受粉の省力化が可能な品種として普及が期待されます。

「なるみ」は平成8年に中生の果実品質良好な162-29(「新高」×「豊水」)に、自家和合性を有する269-21(「豊水」×「おさ二十世紀」)を交雑し、平成19年からナシ筑波57号として検討を行いました。平成27年に品種登録出願し、同年11月27日に出版公表されました。「なるみ」の名は、自家和合性を有し、自家受粉で実がなるナシであることに由来します。苗木は平成28年秋季より販売される予定です。10県の36業者において苗木生産が行われています。



写真5 ニホンナシ「なるみ」の結実状況



写真6 ニホンナシ「なるみ」の果実

表2 ニホンナシ「なるみ」の果実特性

品種名	収穫中央日	果実重(g)	糖度(%)	pH	果肉硬度(lbs.)	みつ症の発生	心腐れの発生	自家結実率(%)
なるみ	9月5日	625	13.2	4.9	4.7	無	無～少	68.3
豊水	9月6日	497	13.2	4.7	4.8	少～多	無～少	3.9

農研機構果樹茶業研究部門(茨城県つくば市)における成績

自家結実率は2～4年間の平均、その他の項目は4年間(2012-2015)の平均

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」(福島県)～持続的な果樹経営を可能とする生産技術の実証研究～

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科長 増子俊明

1. はじめに

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」については、32号では岩手県、33号では宮城県の取り組みについて紹介されましたが、今回は福島県の取り組みについてご紹介いたします。

本県では、東日本大震災時に原子力発電所事故を原因とする放射性物質による深刻な被害を受けたことから、特にナシと県北地方のあんぽ柿について産地再生に向けた取り組みが急務となっていました。このため、ナシ産地の再生を図るための早期成園化技術と病害虫防除技術の実証研究は福島市に、カキ産地の再生を図るための早期成園化技術と品質の安定したあんぽ柿生産のための実証研究は伊達市に、それぞれ実証ほ場を設置して試験に取り組んでいます。

2. 研究グループ構成

(1) 研究代表機関

福島県農業総合センター果樹研究所
(電話 024-542-4191)

一般社団法人 食品需給研究センター
(電話 03- 5567-1991)

(2) 共同研究機関

神奈川県農業技術センター、奈良県農業研究開発センター 果樹・菓草研究センター、和歌山県果樹試験場かき・もも研究所、大内わら工品株式会社、株式会社福島天香園

3. 実証研究の成果

(1) ナシ産地の再生技術実証研究

ナシでは、本県で開発した新文字型樹形および神奈川県で開発したジョイント型樹形による早期成園化技術、千葉県等で開発された「梨病害防除ナビゲーション」の活用技術、土着天敵類および多目的防災網等による総合的病害虫防除技術について実証研究を行っています。

ア 福島市のナシ実証ほにおける新文字型樹形は、定植後3年目に「豊水」で1.5t/10aの収量が得ら

れました。また、ジョイント型樹形では定植後3年目に「あきづき」で2.9t/10aの収量が得られ、両樹形とも早期成園化に極めて有効な技術であることを確認しました。さらに現在、神奈川県農業技術センターで育成された新品種「麗香」の適応性や両樹形の作業省力化、側枝確保法などについても検討を進めています。



図-1 ナシの新文字型樹形



図-2 ナシのジョイント型樹形

イ 本県におけるナシの重要病害である黒星病対策のため、「梨病害防除ナビゲーション」を利用して防除要否を判断しながら防除を実施することで、慣行防除よりも黒星病防除剤を2剤削減できました。現在は、黒星病の重要防除時期である梅雨期の散布間隔の延長等残された課題に取り組んでいます。

ウ ナシ実証ほの下草にシロツメグサやアップルミントを導入し、カブリダニ類など土着天敵類の定着・温存を図る栽培に取り組み、殺ダニ剤を使用しなくともナシに被害を与えるハダニ類の密度抑制が可能となりました。ただし、実証ほではカイガラムシ類やサビダニ類の発生が見られたことから、土着天敵に影響の少ない殺虫剤の使用方法について検討しています。

(2) カキ産地の再生技術実証研究

カキでは、奈良県特許取得技術の幼苗接ぎ木法を利用した大苗密植栽培技術および和歌山県で開発した樹形改造(主幹切断)技術を利用した早期成園化技術、また、品質安定のため閉鎖系施設を利用したあんぽ柿加工技術の実証研究を行っています。

ア カキ「蜂屋」の新植時には1～2年間養成した大苗を定植すると、生育が良好で樹冠拡大が早いことを確認しました。また、奈良県で開発された幼苗接ぎ木苗の定植でも慣行苗と比較して生育差は認められないことも確認しました。現在、果実の収量・品質や放射性物質の濃度について調査しています。また、奈良県が開発した幼苗接ぎ木法を用いて、あんぽ柿の原料となる「蜂屋」の育苗技術確立のために試験に取り組んでいます。

イ 和歌山県で開発された主幹切断による樹形改造は、「蜂屋」でも1年生苗定植よりも樹冠拡大が早く、処理後3年目に結実することが確認されました。現在、主枝候補枝の誘引、病害虫防除等についてさらに検討中です。



図-3 主幹切断処理した「蜂屋」の生育状況(処理後3年目)

ウ あんぽ柿の製造工程で、機械乾燥と自然乾燥を組み合わせながら慣行の加工方法と同等の色調および品質を保持しつつ、従来よりも短時間で製品に仕上げる事が可能な加工法を開発しています。

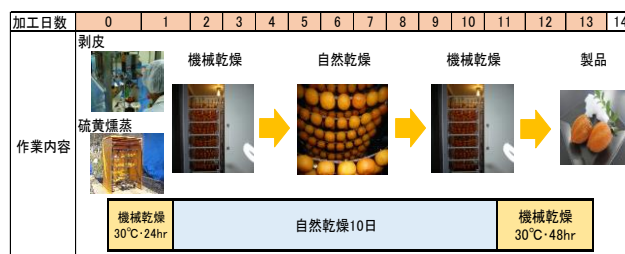


図-4 開発中のあんぽ柿加工工程

コラム

果 樹 対 策 の 今 昔

公益財団法人 中央果実協会 副理事長 小栗 邦夫



本年6月に、副理事長に就任しました。よろしくお願いいたします。

平成14年から15年にかけて、農林水産省で果樹花き課長を務めて以来、13年振りの果樹担当となります。10年ひと昔と言いますが、果樹対策の様相も大きく変化しています。

当時は、うんしゅうみかんとりんごの生果について、価格低下時に補てん金を交付する果樹経営安定対策事業を実施しており、うんしゅうみかんの需給均衡策、特に、表年の摘果の推進が重要な課題でした。

一方、最近の果樹をめぐる事情をみると、果物の国産割合が当時の約5割から約4割に低下し、産地を拝見しても、生産力の低下が強く感じられます。

農業者の高齢化が深刻なのは、他の農作物も同様ですが、担い手への農地の集積が比較的容易で規模拡大が急速に進んでいる水田作とは異なり、果樹作は、機械化が困難な作業が多く、急傾斜地も多いため、生産の維持に特に難しさがあります。また、新技術や新品種の導入にも、少なからず期間を要する果樹の特殊性もあります。

平成19年から開始した果樹経営支援対策は、正にこのような課題に応える中核的な施策であり、優良品種への改植、園内道・かん水施設の整備や、これを後押しする未収益期間支援対策が、各産地の実情に応じて、今後も充実されていくことが、大事だと思われます。

一方、私は今までに様々な作物の生産対策を担当してきましたが、果樹については、その特徴を生かすことが何より肝要だと思っています。それは、農作物の中で、果物ほど、品質差、価値観の差が大きいものはないと思うためです。

野菜は、生活必需品として認識され、物価安定の対象として、主要品目を常に安定的に供給することが、何より求められます。今秋のようにキャベツや大根の価格が高くなれば苦情がきて、マスコミも

大きく取り上げます。しかし、今年のキャベツは味が今イチだなどと品質面が問題になることは、まずありません。

コメは、近年は各県が品種改良に取り組まれ、産地間の品種・銘柄競争が盛んです。しかし、それらの食味の差は小さくなく、目隠しテストをすれば見分けられないほどだと思っています。

それに対し、果物では、味に対する消費者の目は厳しく、味が命です。

極早生みかんが酸っぱかったり、晩生みかんでは浮き皮が多くなったりすると、消費者から見放されてしまい、その後の消費が減ってしまいます。

欧米では、健康増進のための果物の重要性が広く認識され、消費量が増加しています。日本でも、政府が推奨する「健康日本21」や「食事バランスガイド」に基づき、果物の消費拡大運動に取り組んでいますが、未だに浸透、定着していません。

残念ながら、一般の消費者から見れば、果物は必需品ではなく、まだ嗜好品の1つであり、気にいられなければ選択されない立場です。

幸い、光センサーによる糖度選別が普及し、味が揃ってきています。

また、品種改良が進み、素晴らしい品種の普及が進められています。例えば、ぶどうのシャインマスカットは、当時の果樹研究所長が、いずれ大物品種になると言われていましたが、今まさにブレイク状態で、苗木が不足する事態となっています。

さらに、うんしゅうみかんの橙色の色素、β-クリプトキサンチンが機能性成分として骨密度の維持に有効であることが明らかにされ、機能性食品表示が認められるなど、消費拡大に追い風となる材料も増えています。

今後は、これらを生かして関係者を挙げて消費拡大に取り組むことと、国の施策を活用した産地の生産力の維持回復が、重要だと考えています。

中央果実協会では、関係者の皆様と連携しながら、業務を適切に遂行してまいりますので、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2016年アジア果実会議・展示商談会等について—情報部—

＜アジア果実会議＞

毎年、アジア果実会議が香港国際展示場で開催されます。今年は9月6日に40カ国から約400人が参加して行われました。この会議はアジアにおける果実流通の活性化を目的としていますが、大洋州、南北アメリカ、欧州のみならず、アフリカから出席者があり、アジア市場への参入意欲の高さが伺われます。特に今年は、出席者数が昨年を100人上回りました。



今年の議題は、①中国市場の今後、②各国の年齢構成から見た市場分析、③アジア市場の将来、④リンゴのブランド化、⑤日本市場への成功の道等でした。



「中国市場の今後」では、オンライン販売の重要性と流通インフラの改善の必要性が強く指摘されました。また、「日本市場への成功の道」では、日本から流通業者4名が出席

し、日本の果樹産業の現状、消費・販売の動向が紹介されました。この中で行われたパネルディスカッションで、「日本において今後の伸びが見込まれる輸入果実は何か」との質問があり、4名の内3名から「種なしブドウ」との回答がありました。

＜アジア果実展示商談会＞

9月7日から3日間、同じ会場の大ホールでアジア果実展示会が開催されました。今回の入場者数は昨年を22%上回る1万1千人で、世界74カ国から果物取引の専門家が来場しました。会場のスペースは前年を18%上回り、出展数は665で、37カ国からの参加があり、展示と商談が行われました。



東京青果グループ



日本ぶどう生産者協議会

日本からは、昨年に引き続き青森リンゴ、京都青果グループ、トキタ種苗が出展し、初めて東京青果グループ、日本ぶどう生産協議会が出展し

ました。東京青果グループは、「輸送、鮮度保持、新しい食べ方の提案等を統合し、トータルで付加価値の高い国産品の輸出を行うこと」を狙いとしたもので、業種をまたいだ出展でした。

国別では、大洋州はオーストラリアが昨年を上回る大きな出展で、ニュージーランドはリンゴ新品種に力点を置いていました。中南米ではチリその他、エクアドル、メキシコ、アルゼンチンが前年を上回り、コロンビアが初出展しました。欧州からは、オランダ、スペイン、イタリアが昨年を上回っていました。アジアではトルコが大きな展示をするともに、韓国、マレーシア、ベトナムも昨年を上回りました。アフリカからは、南アフリカ、エジプトが熱心な活動をしていました。

なお、日本は8月に香港で開催されるフードエキスポの方に力点を置く方針とのことです。



ニュージーランドのパビリオン



スペインのパビリオン

＜香港における果実流通調査＞

JETRO 香港事務所等で説明を受けるとともに、イオンコーヒル店、地元資本系スーパー、公設市場において日本産果実の販売状況を調べました。関係者から以下の話を伺いました。

・円高と香港の食品輸入全体が減少する中で、日本からの果実輸出は着実に増加している。特にリンゴは増加が著しい。

・従来は日系スーパー、デパートで販売するのが主であったが、最近は扱う店舗が増加している。公設市場でも販売するようになった。また、贈答用以外での消費が拡大している。

注：公設市場とは食料、日用品などを扱う商店の集まり。安くて新鮮なため多くの人が買い物をする。コミュニティーごとに存在し、香港全土で74カ所ある。

・日本からの中級品輸出に関しては、リンゴは出回っているが、その他果実では今後の課題である。

・香港では日本産果実の安定供給を求める声がある。特に春節、中秋節の需要が多い時期に日本産果実の安定供給が求められている。



イオンコーヒル店 日本産リンゴ(青森)4個入パックで67.9HKD(約890円)



地元資本系高級スーパーの日本産モモ2個入パックで128HKD(約1700円)



ワンチャイ公設市場



公設市場の日本産果実(シャインマスカット)

(参考)2015 年香港の果実輸入(t,%)

品目	輸入量	前年比	シェア
ドリアン	329,513	-8	20.4
オレンジ	257,479	10.1	15.9
ブドウ	206,304	5.5	12.8
リンゴ	165,442	30.2	10.2
ロンガン	121,314	-10.3	7.5
ナシ	72,476	6.9	4.5
バナナ	68,437	-1.6	4.2
オウトウ	63,006	8.4	3.9
マンゴ- / マンゴスチン	42,264	-30	2.6
レモン/ライム	41,793	-40.7	2.6
メロン	31,196	-15	2
プラム	30,067	65.9	1.9
キウイ	18,516	16.4	1.1
マンダリン	18,038	11.3	1.1
その他	147,627		9.1
合 計	1,614,471	-0.1	100

出展：アジア果実会議配付資料

第55回農林水産祭「実りのフェスティバル」への出展—需要促進部—

平成28年11月11日(金)及び12日(土)の2日間、東京都豊島区の池袋サンシャインシティにおいて第55回農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催され、当協会も展示ブースを設けて、国産果物を原料とした新商品等の紹介や「毎日くだもの200グラム運動」の理解増進のためのパネル、ポスターの展示等を行いました。

特に、今年の展示では、農林水産省の補助事業である「加工専用果実生産支援事業」による新たな果実加工品の開発状況(5 事業者)や「外食産業等と連携した農産物の需要拡大対策事業」による新商品(試作品)

(14 事業者)などを、パネル展示や果実加工品・試作品の展示と試食試飲等によってPRをしました。

会場には連日沢山の来場者(2日間で4万7千人)が訪れ、当協会のブースでも、展示商品や試食品を提供いただいた事業者の皆様からのご支援のお陰もあって、大変盛況のうちに終えることができました。



また、この日にあわせて、国産果物・加工品の素晴らしさを紹介するため、新しい協会のホームページ(「もぎたてパーラー」)

<http://www.kudamono200.or.jp/parlor/>

を立ち上げましたので、是非ご覧ください。

…次頁に続く



(公財)中央果実協会

編集・発行所

公益財団法人 中央果実協会

〒107-0052

東京都港区赤坂 1-9-13

三会堂ビル 2F

電話：03-3586-1381

FAX：03-5570-1852

編集・発行人

今井 良伸

印刷・製本

(株) 丸井工文社



当協会 Web サイト

URL:

www.kudamono200.or.jp

お知らせ

毎日くだもの200グラム運動
メールマガジン「くだもの&健康
ニュース」を発刊しています。

多くの方の読者登録をお待ち
しております。

メルマガの読者登録方法は
当協会下記ホームページをご
覧下さい。

<http://www.kudamono200.or.jp/JFF/>

なお、中央果実協会では情
報提供・広報活動等を充実す
るため、ホームページの改修
を行うこととしました。



「もぎたてパーラー」のトップペー
ジ。中央果実協会ホームページ
からご覧頂くこともできます。

業務日誌

- 28.10.4～5 食育セミナー(於 仙台白百合女子大学)
- 28.10.6 第2回なしの安定生産に向けたなし花粉の利用実態調査検討会
(於 三会堂ビル)
- 28.10.7 食育セミナー(於 名古屋学芸大学)
- 28.10.13～14 果実基金協会九州地区・東北地区交流会(於 弘前市・黒石市)
- 28.10.26 食育セミナー(於 東京農業大学)
- 28.11.1～2 果実基金協会東日本地区ブロック会議(於 静岡市)
- 28.11.4 全国果樹技術・経営コンクール審査会(於 三会堂ビル)
- 28.11.10 第3回理事会(於 三会堂ビル)
- 28.11.10～11 果実基金協会九州地区ブロック会議(於 大分市)
- 28.11.10 第1回果樹農業研究会(於 三会堂ビル)
- 28.11.11～12 平成 28 年度農林水産祭「実りのフェスティバル」出展(於 サンシャインシティ)
- 28.11.17～18 果実基金協会中国四国地区ブロック会議(於 山口市)
- 28.11.22 外食産業等と連携した農産物の需要拡大対策事業に係る新商品
開発等事業説明会(於 東京)
- 28.11.24 全国果樹技術・経営コンクール審査会(第2回)(於 三会堂ビル)
- 28.11.24～25 落葉果樹ブロック会議(於 福島市)
- 28.11.25 外食産業等と連携した農産物の需要拡大対策事業に係る新商品
開発等事業説明会(於 福岡)
- 28.11.28 外食産業等と連携した農産物の需要拡大対策事業に係る新商品
開発等事業説明会(於 大阪)
- 28.11.29～30 果樹経営支援対策事業等実施評価委員会(現地調査)(於 和歌
山県下)
- 28.11.30 外食産業等と連携した農産物の需要拡大対策事業に係る新商品
開発等事業説明会(於 仙台)

人事異動

農林水産省生産局園芸作物課

新	日付	名前	旧
園芸作物課課長補佐 (園芸消費促進班)	28.10.1	篠田 亨	関東農政局生産部 生産技術環境課長
東北農政局生産部 園芸特産課長	28.10.1	中田博文	園芸作物課課長補佐 (園芸消費促進班)

道県基金協会

区分	新役職	日付	名前	旧役職
退任		28.10.1	亀井 久	和歌山県協会事務局長
就任	和歌山県協会事務局長	28.10.1	最明祐平	